



草間 典夫 議員

質問 通学路安全点検後の改善要望箇所への安全対策は？
答弁 各関係機関が、可能なものから速やかに順次対策を講じていく

草間議員の質問動画



議員

今年度行った「通学路安全点検及び通学路改善要望調査」の結果について伺う。

教育部長

市内を東西に分けて隔年で実施している安全点検を、今年度は市内小中学校全校を対象として実施した。その結果、危険箇所として143件の報告があった。

改善要望の主な内容は、道路際の除草、白線や路面標示の引き直し、道路の修繕、ガードレールや歩道の設置、信号機の設置など多岐にわたっている。

議員

これらの報告された改善要望箇所の危険度については、どのように整理をしているのか。

学校教育課長

各学校から危険箇所の優先順位をつけて報告いただき、それを基に「常総市通学路安全推進会議」で対策を協議している。

議員

この通学路安全推進会議における対策協議の結果を受けて、要望箇所の安全対策及び改善を今後どう

議員

のように行っていくのか。

教育部長

継続的に通学路の安全を確保するため定期的な合同点検を実施し、各対策機関による改善要望箇所の検討及び対策を速やかに行うとともに、対策実施後の確認や効果検証を通して、通学路の安全性の向上を図っていく。また、道路の補修や歩道整備などのハード対策と併せて、交通規制や交通安全教育などのソフト対策も検討していく。

議員

道路形状による用地取得問題や道路交通法などの法令上の問題等で解決が難しい箇所もあるが、調査と要望までで終わりにすることなく、ぜひとも形ある対策まで確実に行っていただきたい。

また、通学路の整備と併せて、この安全点検結果を可視化した交通安全指導教材・資料の作成等、ソフト面の充実を通じた児童生徒への安全指導の強化も重要である。

そして、今後も緊張感と危機意識のある安全点検が継続できるように、点検調査方法の視点や基準を明確にして実施することを望む。



広瀬 光一 議員

質問 常総市の水害対策について
答弁 国や県、市、民間などあらゆる関係者が連携して流域の治水対策を行う

広瀬議員の質問動画



議員

鬼怒川緊急対策プロジェクトについて伺う。

都市建設部長

国・県・鬼怒川沿川の7市町が主体となつて緊急的な治水対策を行った。鬼怒川堤防の整備、河道掘削工事を筑西市から守谷市までの延長44・3キロメートルを平成27年度から総事業費580億円をかけ実施した。八間堀川は、堤防整備や河道掘削工事を平成27年度から29年度に総事業費23億円を投じ、茨城県が決壊した箇所を中心に実施した。

議員

流域治水と当市の具体的な取り組みについて伺う。

副市長

流域治水として、主に三つの対策を行った。一つ目は、堤防の整備や河川に流れ込む雨水を貯留する等の対応で氾濫をできるだけ防ぐ。二つ目は、氾濫した場合を想定し、被害を回避するためのまちづくりや住み方を工夫し被害対象を減少させる。三つ目は、氾濫が発生した際に確実な避難や経済被害

議員

害軽減、早期の復旧・復興のための被害の軽減である。

当市としても自ら取り組むべき課題として、氾濫をできるだけ防ぐ有効な手段に田んぼを活用した治水対策の整備を検討している。また、被害の減少につながる対策として、防災指針を組み込んだ立地適正化計画を策定した。令和3年11月21日には、全国初となるデジタル・マイ・タイムラインのワークショップも実施した。携帯電話で防災情報を共有できれば、避難の実効性が高まると考える。

議員

令和3年に八間堀川の決壊した現場の西側で堤防が崩れ、今はトンネルなどを並べた整備状況であり、このままでは台風や豪雨の度に不安である。一刻も早く、八間堀川西側の堤防整備をお願いする。将来的には、八間堀川のさらなる拡幅及び河川の掘削、浚渫（しゅんせつ）工事を行わなければ安心して生活することはできない。また、鬼怒川の水位を下げるためにも、ぜひ鬼怒川の支流、バイパスを検討するべきだと考える。